平成 25 年度　看護部新人看護職員教育

平成 25 年 3 月

Ⅰ.看護部新人看護職員研修の理念

1.新人看護職員研修は、山口赤十字病院で働く看護専門職業人としての看護実践の基礎を形成するものとして重要な意義を有する。

2.新人看護職員を支えるためには、プリセプターやサポーターなど周囲のスタッフだけではなく、全職員が新人看護職員に関心を持ち、皆で育てるという組織文化の醸成が必要である。よって、新人看護職員を皆で支援し、成長することを目指す。

臨床現場での看護教育は、技術や技能の習得の指導が主であり、その方法としては、「自己啓発」「OJT」「Off-JT」の 3 つがあり、特に OJT が重要であるといわれている。臨床実践（OJT）の場は「経験学習」の場である。新人の成長には、経験学習において PDCA サイクルを回すことが有用である。

Ⅱ．基本方針

1.新人看護職員研修の到達レベルは、赤十字キャリア開発ラダーレベル I の指標の到達とする。

2.臨床実践能力の到達目標は『新人看護職員ガイドライン』に示されている到達目標とする。ただし、経験の場による技術項目の違いはあるものとする

3.OJT における経験学習の場づくり

Ⅲ．具体的計画

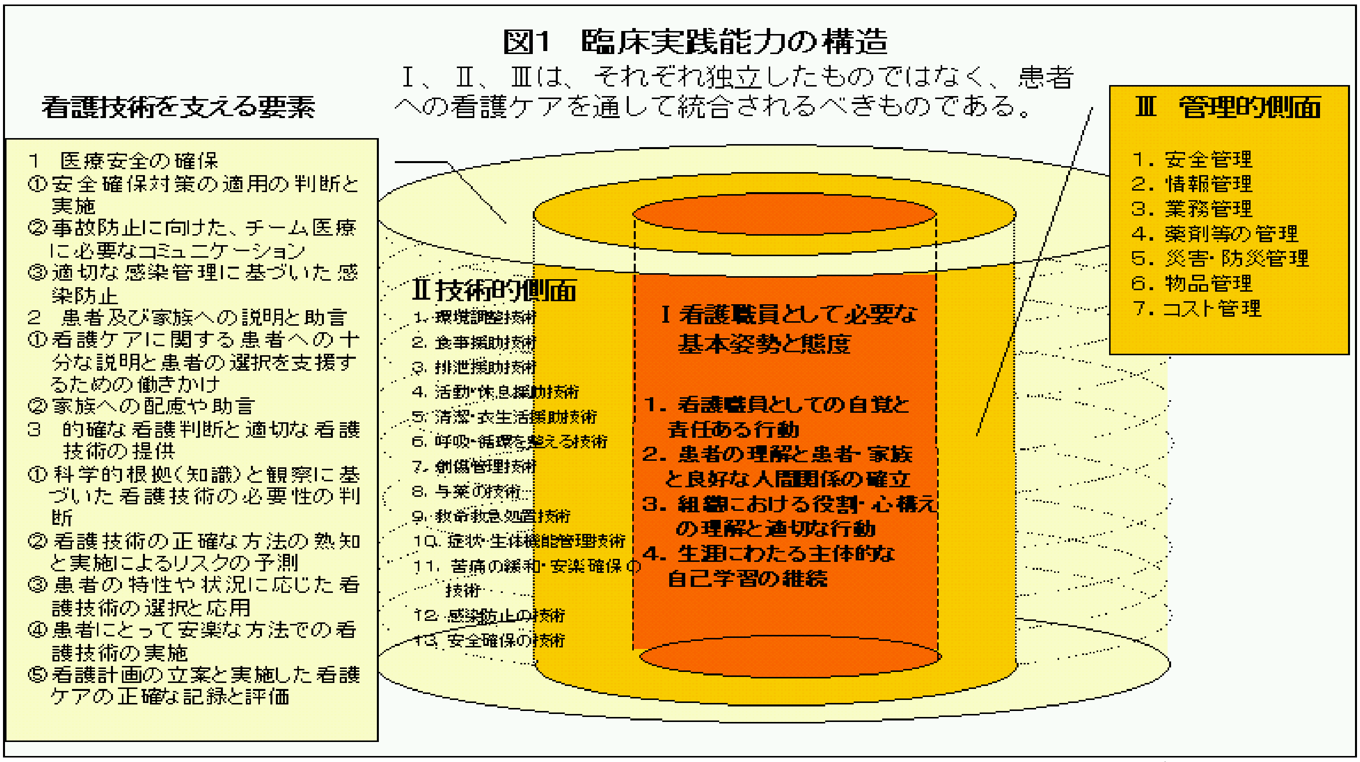
1.新人看護職員 1 年後の到達レベルを明確にした教育計画の立案

1)集合研修での目標の見直し、目標に合わせた指導方法の見直し

2)OJT での目標の見直し、目標に合わせた指導方法の見直し

2.新人看護職員の到達度評価（成長の客観的評価）としてポートフォリオの導入

4.日々の成長発見シート活用による、ポジティブな教育の場づくり



出典：厚生労働省新人看護職員研修ガイドライン

表１　看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標

領域	到達目標
看護職員としての 自覚と責任ある行動	⑴医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する。 ⑵看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する。 ⑶職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する。
患者の理解と患者・ 家族との良好な 人間関係の確立	⑴患者のニーズを身体・心・社会的側面から把握する。 ⑵患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する。 ⑶患者・家族が納得できる説明を行い、同意を得る。 ⑷家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する。 ⑸守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する。 ⑹看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する。
組織における役割・ 心構えの理解と 適切な行動	⑴病院及び看護部の理念を理解し行動する。 ⑵病院及び看護部の組織と機能について理解する。 ⑶チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する。 ⑷同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる。
生涯にわたる 主体的な自己学習 の継続	⑴自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける。 ⑵課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する。 ⑶学習の成果を自らの看護実践に活用する。

出典：厚生労働省新人看護職員研修ガイドライン

表２　看護実践における管理的側面についての到達目標

領域	到達目標
安全管理	⑴施設における医療安全管理体制について理解する。 ⑵インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告を速やかに行う。
情報管理	⑴施設内の医療情報に関する規定を理解する。 ⑵患者等に対し、適切な情報提供を行う。 ⑶プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う。 ⑷看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する。
業務管理	⑴業務の基準・手順に沿って実施する。 ⑵複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する。 ⑶業務上の報告・連絡・相談を適切に行う。 ⑷決められた業務を時間内に実施できるように調整する。
薬剤等の管理	⑴薬剤を適切に請求・受領・保管する（含、毒薬・劇薬・麻薬）。 ⑵血液製剤を適切に請求・受領・保管する。
災害・防災管理	⑴定期的な防災訓練に参加し、災害発生時（地震・火災・水害・停電等)には決められた初期行動を円滑に実施する。 ⑵施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する。
物品管理	⑴規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う。 ⑵看護用品・衛生材料の整備・点検を行う。
コスト管理	⑴患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する。 ⑵費用対効果を考慮して衛生材料等の物品を適切に選択する。

出典：厚生労働省新人看護職員研修ガイドライン